さざんか

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信第１号(R5. 4. 7)

令和５年度の河東中学校が始まりました

例年に比べ暖かな春の陽気が続いている中、令和５年度の河東中学校がスタートしました。今日は、新しく着任された１５名の先生方との赴任式に始まり、１学期始業式、学年集会、クラス発表とあわただしく一日を過ごしました。新しい先生たちとの出会いや新しいクラスの仲間との出会いに胸を躍らせる一日です。希望と不安の入り混じった初日を過ごしたことでしょう。

改めまして、本年度河東中学校 4 年目を迎えました校長の原田でございます。今年もこの学校だよりを通じて、生徒のみなさん、保護者の皆様、地域の方々に学校の情報を発信していきます。また、裏面には校長としての考え方や中学生に伝えたいことをコラムとして書いていきたいと思います。なお、本通信の題名を「さざんか」と改称しました。PTA 新聞の題名「けやき」とともに校内で美しい植物である「さざんか（山茶花、サザンカ）」を由来とします。

離任された先生方と新しい赴任先

離任者	在籍年	異動先
笠井康行	１年	宗像市教育委員会主幹指導主事（校長昇任）
中村実桜	4年	愛知県春日井市立柏原中学校
渡邊雅之	6年	津屋崎中学校
杉野祐一	4年	退職
井上裕二	2年	退職
西嶋貴洋	2年	古賀市千鳥児童センター
金子恵理子	8年	自由ヶ丘中学校
賀門雅也	6年	福岡教育大学附属福岡中学校
森多妃子	6年	自由ヶ丘中学校
野本健輔	8年	中央中学校
松尾由起子	9年	河東西小学校
ｹﾝ・ﾐﾗｰ	3年	
ﾀﾞﾛﾝ・ﾓｱﾍｯﾄﾞ	3年	

赴任された先生方

赴任者	異動元	教科等
村本（むらもと）　篤史（あつし）	福岡県青少年育成課	教頭
齋藤（さいとう）　律子（りつこ）	採用	国語
宮城（みやぎ）　壮介（そうすけ）	採用	数学
池邉（いけべ）　壮汰（そうた）	採用	社会
藤岡（ふじおか）　武志（たけし）	採用	理科
井料（いりょう）　桂子（けいこ）	日の里中	理科
野田（のだ）　千紗（ちさ）	福間中	体育
鳥井（とりい）　健宏（たけひろ）	玄海中	体育
綿田（わた だ）　由香（ゆか）	宗像中	国語
片岡（かたおか）　勝信（かつのぶ）	城山中	体育
石井（いしい）　沙織（さおり）	城山中	理科
城戸（きど）　優（ゆう）	自由ヶ丘小	事務職
翁林（おう りん）　良磨（りょうま）	新卒	数学
奥田（おくだ）　哲也（てつや）	赤間西小	数学
安田（やすだ）　恵子（けいこ）	育休明け	理科

限りなく成長する一年にしましょう！
～　始業式に校長として全校生徒に伝えたかったこと～

河東中学校で今年一年大切にしたい言葉があります。それは、「成長」という言葉です。一生の中で中学生の時期ほど様々なことで成長する時期はありません。背丈が伸び、心が豊かになりスポーツや芸術などの技能は飛躍的に向上します。脳の発達により記憶力だけでなく論理的な思考力も身に付いていきます。

では、この一年間で最大限成長するためにはどうしたらよいのか？―というのが、始業式での校長式辞のテーマでした。

効果的で効率的に成長するためには、３つのステップを踏むことが必要です。

① 目標と目的を持つ

成長のために大切なのは、まず自分が成長しようと思うことに、目標と目的を持つことです。勉強でも部活動やクラブチーム・習い事、学校行事、何でもそうですがただ漠然とやるのと目標を持ってやるのとでは成長に差が出ます。また、何のためにこれをやるのかという目的意識を明確に持つことが加速度的に成長を促します。学校が始まった今、しっかりと目標を定めましょう。目標は具体的に（できれば数字を入れる）、そして人にも伝えましょう。

② 結果を出す

次に必要なのは、やるからには優勝するなどと結果を求めることです。そのためには、日々の努力を積み重ね、最善を尽くすことです。そして、結果が出たらよい結果でも望まない結果でも、自分のものとして受け入れることが大事です。自分に不都合な結果が出たとき、伸びない人ほど他人のせいにします。どんな結果でも自分のものとして引き受けることで次の成長へとつながります。

③ 結果よりも成長を大切にする

最も大切なことは、結果よりも何かに取り組む過程で自分がいかに成長したかということです。例えば、体育祭では優勝を目指しますが、結果が最下位であっても個人として集団として成長することや達成感を味わうことはできます。中体連でも受験でも同じです。仮に結果は思うようにいかなくても、プロセスで成長することが最も大事なことです。

成長するために大切な２つの心の技法があります。

１つ目は、「一日一日少しずつ成長する。人と比べない。」という心構えです。WBC で侍ジャパンを優勝に導いた栗山英樹監督を題材に話をしました。栗山監督は、歴代の WBC やオリンピックの日本代表監督の中で唯一、選手時代に名選手としての実績のない人です。と言うよりも、無名でした。甲子園出場経験なし、大学は国立の東京芸大野球部。ヤクルトにはドラフト外でテスト生として入団しました。もちろん２軍からですが周りの選手と自分の力の差にがく然として、いつ辞めようかとばかり考えていたそうです。そんな栗山選手を支え、代表監督になっても忘れなかったのが、当時の２軍監督である内藤監督からかけられた言葉だそうです。

「なあクリ、プロ野球っていうのは競争社会だよな。１軍に上がらないと認められないよな。でも、オレはそんなことはどうでもいいんだよ。お前が人間としてどれだけ大きくなれるかどうかのほうが、オレにはよっぽど大事なんだ。だから、周りがどう思おうと関係ない。明日の練習で今日よりほんのちょっとでもうまくなっていてくれたら、オレはそれで満足なんだよ。他の選手と自分を比べるな」（『栗山魂』より引用）

２つ目は、「あきらめない心。自分の能力を見限らない、自分の可能性を信じる。」という心構えです。サーカスの象を題材に話をしました。サーカスの象は、あの巨体でも足に鎖をかけ小さな杭で止めておくと逃げません。なぜかというと、小象の時に鎖でつながれ、逃げようともがいてもできないことを何度も繰り返して経験させられているからです。これをマインドブロックと言って、本当はできるのにできないと思い込んでしまうことです。

最後にまとめとして、パナソニック（松下電器）の創業者である松下幸之助さんの言葉を紹介しました。「人と比較をして劣っているといっても、決して恥ずかしいことではない。けれども、去年の自分と今年の自分を比較して、もしも、今年が劣っているとしたら、それこそ恥ずかしいことである。」

来年の今頃、この一年で自分はすごく成長したなあと実感できるようにしていこうではありませんか。

河東中生は、今年一年、勉強でも部活動やクラブチーム、芸術活動でもなんにでも限りなく成長する一年であってほしいと心から願っています。